

## 編集後記・Editorials

魚類学雑誌  
55(1): 75

魚類学雑誌55巻1号をお届けします。本号は本論文4本と短報2本のスリムな冊子となりました。悲しむべきか、喜ぶべきか、複雑な心境です（もちろん前者が正しい！）。魚類学会は科研費に依存しない学会運営に向け、舵をきりました。当然、経費の節減が問題になってきます。そんな背景もあり、本誌の電子出版への移行も議論の俎上にのぼってきています。昨年度のような厚い冊子の継続的な発行は、予算面から現状では困難です。本誌の発行スタイルは、多くの議論と紆余曲折をへて定まってくるのでしょう。ただし、時間的な余裕はあまりないよ

うです。発行自体はもちろん継続されますので、これまでも増し、活発なご投稿をおねがいします。

3月の初旬、「第35回四国魚類研究会」が開催されました。毎年、様々な分野の魚類関係者が四国各地からつどい、研究発表をおこないます。と同時に、ある種の発酵飲料も大量に消費します。会場のある仁淀川河畔では梅がほころび、春までもう一歩の陽気でした。本号の「先達」にご登場ねがった岡村 収さんは、この会の創立メンバーのお一人で、会の発展に多大な貢献をなされています。この場をかり、お知らせいたします。

（佐々木邦夫）